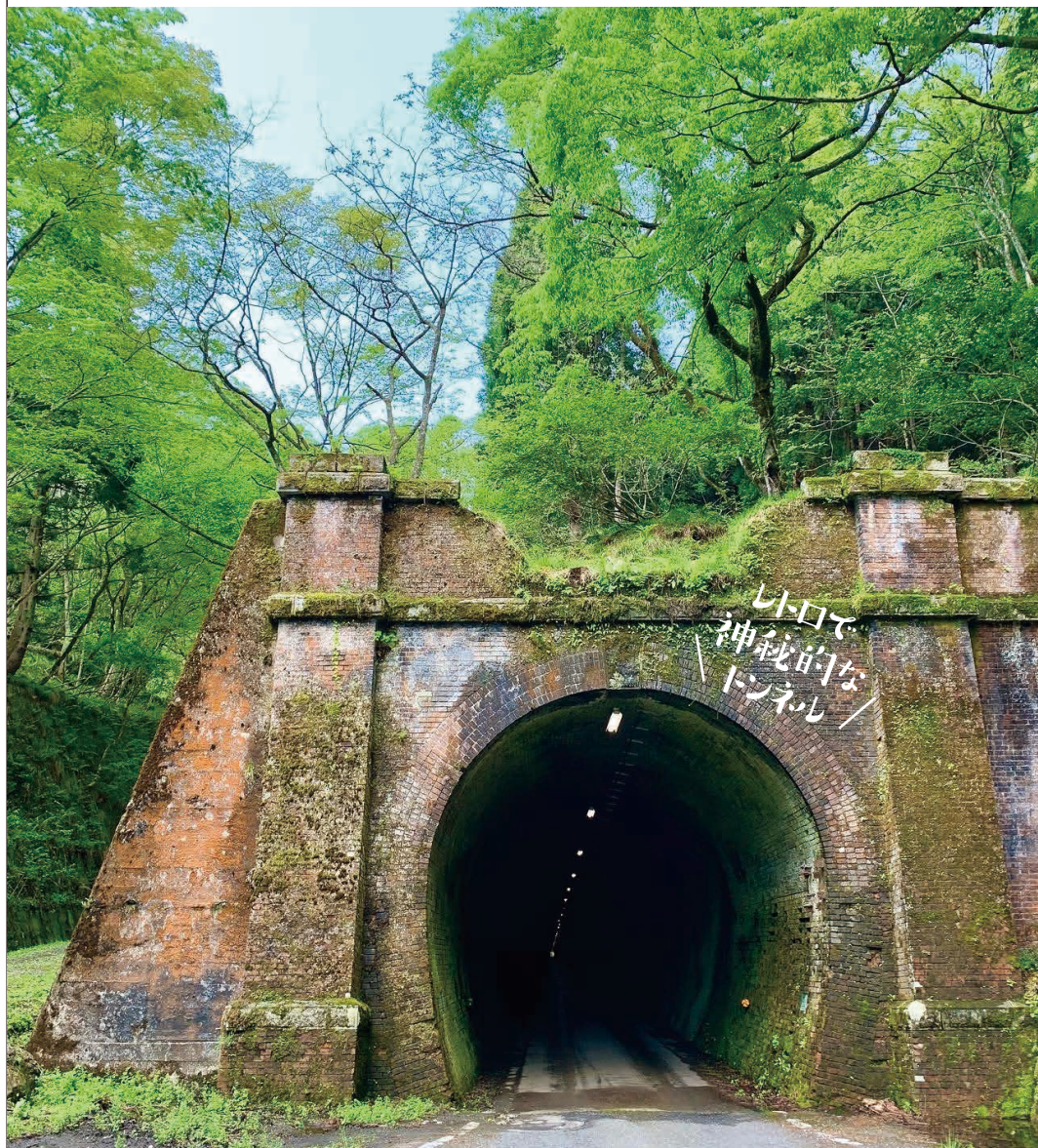
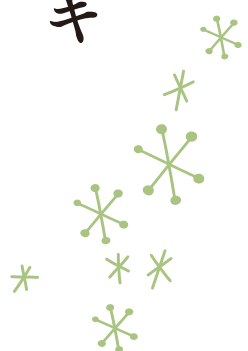


海を越えた鉄道 世界へつながる鉄道のキセキ



旧北陸線の敦賀—今庄間の13基のトンネルのうち、最も長いトンネル(1,170m)が「山中トンネル」。平成28年(2016)に、県道207号中にある他の旧鉄道トンネルなどと合わせて国の登録有形文化財となった②

物流の革命をもたらした
待望の鉄道計画。

古くから大陸の玄関口として栄えたまち、敦賀。古来より日本海側の物資は、敦賀から琵琶湖を経て関西へ運ばれてきましたが、過酷な峠を越えなければなりません。そこで、明治2年(1869)に日本海と太平洋をつなぐプロジェクトとして、琵琶湖—敦賀間の鉄道敷設が閣議決定されたのです。明治15年(1882)、日本海側で初の鉄道が敦賀まで敷設され、2年後には長浜—敦賀間で柳ヶ瀬トンネルが開通し、日本海と内陸部を結ぶ旧北陸線が開業しました。明治29年(1896)には、急勾配の難所・山中越えを含む敦賀—福井間が開通しました。

昭和37年(1962)の北陸トンネル開通によって旧北陸線が廃線になった後も、鉄道跡は地域に密着した文化財として生き続けています。そのなかでも、敦賀と南越前町の今庄との間に掘られた鉄道遺産「旧北陸線トンネル群」は圧巻です。13基のトンネルのうち11基が現在も残されており、石やレンガ積みなどの壁面など当時の技術を間近で見ることが出来ます。ほかにもスイッチバック跡や暗渠などの鉄道遺産が数多くあり、明治の土木技術を今に伝えています。

当時、敦賀・今庄の両駅では峠越えの準備のためすべての機関車が停車しました。停

車時間を利用して各駅では弁当や新聞などの立ち売りが行われ、敦賀駅で販売された「鯛鮓」は、駅弁やお土産の人気商品に。また、今庄駅では停車中にホームで食べる「立ち食いそば」が評判となり、「今庄そば」として現在も親しまれています。

国際都市の文化が残る敦賀と北国街道の宿場町だった今庄、それぞれのまちをめぐると、鉄道を通じて息づいてきた建物や文化に出会うことができます。北陸新幹線敦賀延伸によりさらに深まる鉄道の歴史と、地域の魅力を見つける旅を楽しんでみてください。

主な構成文化財 関連施設



- ① 柳ヶ瀬トンネル／敦賀市、長浜市
- ② 山中トンネル／敦賀市、南越前町
- ③ 曲谷トンネル／敦賀市
- ④ 敦賀赤レンガ倉庫／敦賀市
- ⑤ 杉津の景観／敦賀市



右上／杉津PAにある展望台から望む敦賀湾の絶景パノラマ⑤ 右下／敦賀赤レンガ倉庫。北棟・南棟・煉瓦塙が国の登録有形文化財④ 左上／福井県を代表する昔ながらの田舎そば「今庄そば」 左中／今庄宿は、北国街道の要衝として繁栄した宿場町 左下／赤レンガ倉庫内、敦賀の町なみを再現したノスタルジオラマ④



●公式HP
海を越えた鉄道
長浜市・敦賀市・南越前町
観光連携協議会